



第45回「おかねの作文」コンクール

生き方につながるお金の使い方

東京都・学習院女子中等科 3年 芳川 真穂

「お金の使い方は生き方につながっているんだよ。」

父がそんなことを言っていた。これはどういう意味なのだろう。

父の勧めで、私がおこづかい制を始めて1年半が経つ。そして、おこづかい制を始めた後、更に「労働制」も取り入れた。それは、私が毎日やる仕事を一つ決めて、1か月やると300円のお給料がもらえるというものだ。私の仕事は、食後のテーブル拭きだ。でも、そのまま300円を受け取るわけではない。この中から「税金」を納めるのだ。それを「家族税」と名付けた。300円の10パーセントの30円を毎月納めて、それを貯めて、家族で何に使うのかを相談することにした。ポイントは、家族みんなが幸せに感じられる使い方に決めることだ。これは、世の中の仕組み、働いて得た収入の中から税金を国に納めることを体感するために始めた。

「知識として知っていること」と、「実感すること」には、大きな違いがあると思った。実際、おこづかい制と労働制をやってみて、自分が変わってきた点がある。

まず一つめは、お金を大切にするようになったことだ。お買い物に行くと、欲しいものを見つけても、すぐに飛びつくことがなくなった。これは本当に必要なのか、似たようなものを持っていないかなど、よく考えるようになった。「必要なもの」と「欲しいもの」の区別ができるようになった。

二つめは、決められた金額の中でやりくりしたり、労働制を経験する中で、消費税や所得税など、税金のことにも興味を持つようになった。消費増税や、税金の無駄遣いなどの話題が取り上げられているので、ニュースなどにも気持ちが向くようになった。みんなが納めた税金がどのように使われるのか、みんなのためになるように使われているのか、とても気になるところだ。

三つめは、何をやるにもお金がかかるなあ、とお金が必要であることを痛感したことで、将来しっかり働いて収入を得たいと思うようになったことだ。こんな仕事が見たいなあ、そのためにはどんな勉強をすればよいのだろうか？と考えるようになった。





もし、おこづかい制と労働制をしていなかったら、なんとなくお金を使っていて、まだこういう気持ちになっていなかったと思う。

この間、学校の公民の授業で、景気について学んだ。「商品が売れば企業は多くの商品を生産する。そして、利潤が増え、労働者も多く雇用し、給料は上がり、物価も上昇する。これは好景気である時に起こる現象である。」でも、この間のニュースでは、1世帯当たりの平均所得が下がっていると報じていた。これから先も、こういう状態が続いていくかもしれない。そうすると、自分でお金を管理する力がもっと必要になっていくと思う。

だからといって、とにかく節約して、貯めればよいというわけではないと思う。お金は、ぐるぐると回っているものだと思う。私たちがものを買った時に支払ったお金。それはお店に入り、その中から仕入れにかかったお金を払ったり、お店の人のお給料にもなる。お店がもうかれば、新しい設備ができるかもしれないし、新しい店舗ができるかもしれない。そして、お店の人は、その受け取ったお給料を使う。こんなふうにお金は回っている。だから私は、お金を支払う時に、いってらっしゃい!と心の中で思う。みんなが、貯めることばかり大切にして、この「ぐるぐる」を止めては大変だ。

そうかといって、やはり使えるお金は限られている。「私」は何をしたら幸せかな。何が好きかな。これはなくてもいいな。我慢できるな。これには使うべきだな。自分のことを見つめ直し、お金を使う時の優先順位を付けたらどうだろう。そう考えたら「お金の使い方は生き方につながっている」という意味が分かった気がした。自分の生活、つまり生き方をデザインするような気持ちになった。お金の使い方は、使う人を表すものだと思った。さあ、私はどんな未来を描いていこうか。

